

DT-EBML63Q2557

ファームウェア書き込み手順書

本資料に記載の情報は本資料発行時点のものであり、データ・テクノは予告なしに、本資料に記載した仕様を変更することがあります。

データ・テクノのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

株式会社データ・テクノ

<https://www.datatecno.co.jp/>

Rev.20250528

目次

1	概要	3
1.1	用語	3
2	要件	4
3	ソフトウェアの置き場の注意点	4
4	書き込み前の準備	5
4.1	ML63Q2500 Software Pack をインストール	5
4.2	DT-EBML63Q2557 との接続	5
5	DAPLink を使用する場合	6
5.1	DAPLink を使用する前に	6
5.2	Keil uVision で書き込み環境を構築	6
5.3	Keil uVision で書き込み	8
6	J-Link を使用する場合	9
6.1	必要なファイルの準備	9
6.2	J-Flash で書き込み	9
7	商標	11
8	改訂履歴	12

1 概要

本書は DT-EBML63Q2557 に「AIVibrationInference~.hex」を書き込むための手順書です。

※「~」にはバージョンが入ります。

1.1 用語

項目	説明
DT-EBML63Q2557	DT-EBML63Q2557 基板

2 要件

必要な物が不足している場合、入手してください。

1. 「ML63Q2500 Software Pack(機種情報ファイル)」

ローム株式会社 HP から入手できます。

2. 「AIVibrationInference~.hex」(以降 hex ファイル)

株式会社データ・テクノ HP から入手できます。

3. hex ファイルを書き込むためのデバッガーとソフト

※本書では DAPLink または J-Flash が使用できる J-Link の使用を想定しています。

CH32V203 DapLink 等の DAPLink の場合は Keil uVision を使用します。

J-Link の場合は Olimex 製 ARM-JTAG-20-10 等の JTAG アダプタと、J-Flash が必要です。

4. LEXIDE 用ユーザーズマニュアル「FJXTLEXIDE_OMEGA_ARM_UM-02.pdf」

※J-Link を使用する場合があります。

ローム株式会社 HP から LEXIDE-Ωをダウンロードしてインストールすると入手できます。C:¥LAPIS¥LEXIDE¥Doc にあります。

3 ソフトウェアの置き場の注意点

ソフトウェアを置く場所に日本語を含めないでください。

4 書き込み前の準備

4.1 ML63Q2500 Software Pack をインストール

ML63Q2500_DFP_r.1.0.1.zipの中からROHM.ML63Q25x7_DFP.1.0.1.packを取り出します。ダブルクリックしてインストールします。

ROHM.ML63Q25x7_DFP1.0.1.pack

2025/04/30 16:30

uVision Software Pack

67 KB

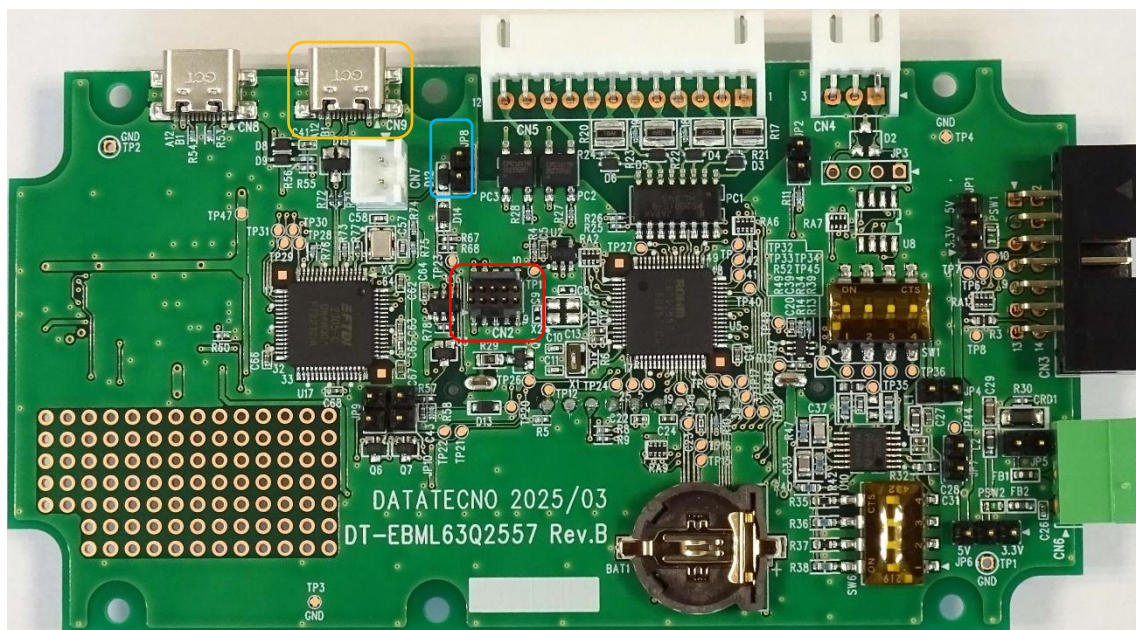
4.2 DT-EBML63Q2557 との接続

DT-EBML63Q2557 のジャンパーとケーブルを接続します。

JP8: ジャンパーを接続します。

CN2: デバッガーを接続します。

CN9: 電源ケーブルを接続します。



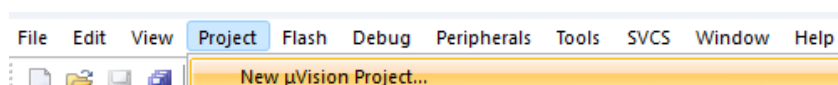
5 DAPLink を使用する場合

5.1 DAPLink を使用する前に

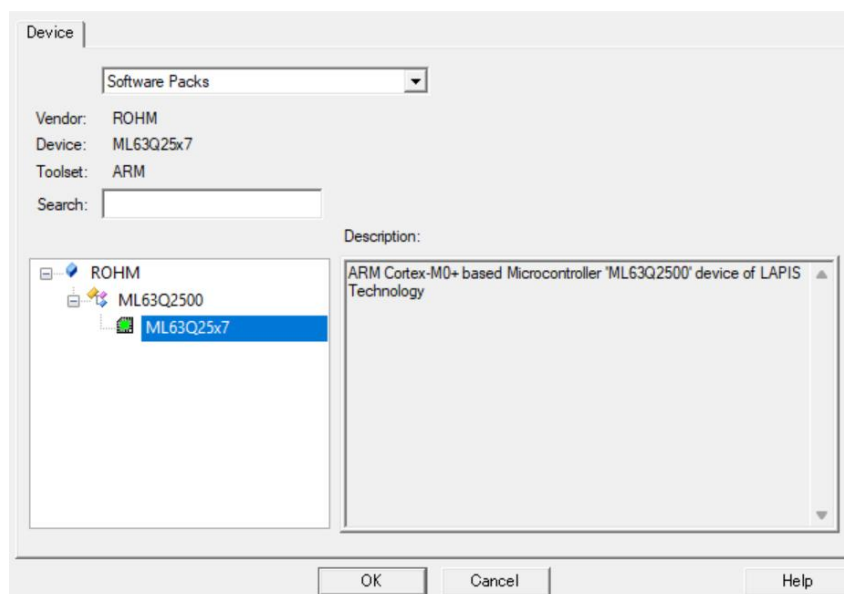
DT-EBML63Q2557 は、デバッグインターフェースからの電源供給には対応していません。電源供給機能を持つ DAPLink の場合、必ず DT-EBML63Q2557 へ電源が供給されないようにしてください。

5.2 Keil uVision で書き込み環境を構築

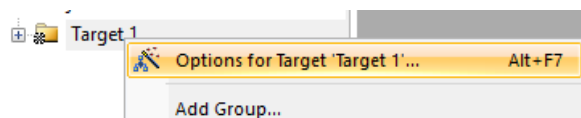
1. Keil uVision を開き、「New μ Vision Project…」でプロジェクトを作成します。



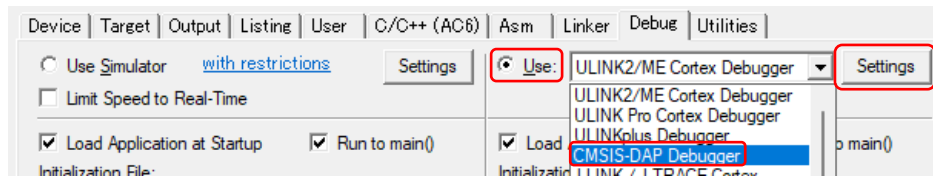
2. Device タブで ML63Q25x7 を選択し、OK を押します。



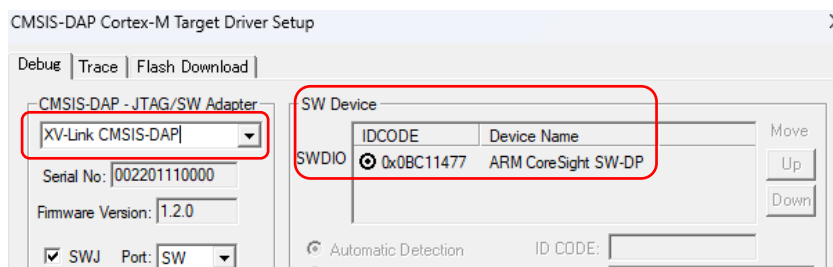
3. 「Manage Run-Time Environment」はそのまま OK を押します。
4. 「Target1」を右クリックし、「Options for Target 'Target 1'…」を選択します。



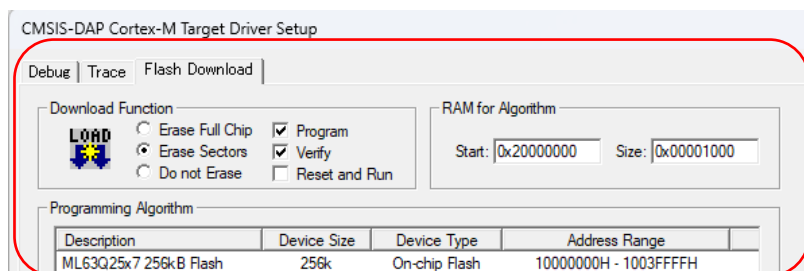
5. Debug タブで「CMSIS-DAP Debugger」を選択します。



6. Setting を開き、使用する DAPLink を選択します。
SW Device に Device が認識されているかも確認します。

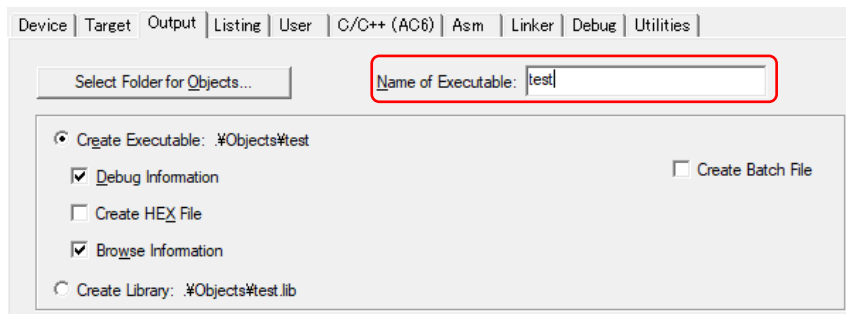


7. Flash Download タブを開き、以下のようにになっているか確認します。
確認後、OK を押します。

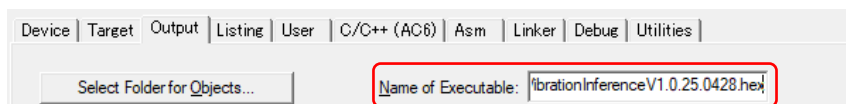


5.3 Keil uVision で書き込み

1. Output タブを開きます。「Name of Executable」に hex ファイル名を書き込み、OK を押します。



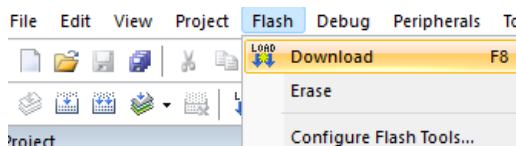
※「AIVibrationInferenceV1.0.25.0428.hex」がファイル名の場合は以下になります。



2. エクスプローラーで今回作成したプロジェクトが存在するフォルダを開きます。
3. Objects というフォルダがあるのでその中に書き込む hex ファイルを入れます。

test.uvoptx	2025/05/21 9:23	UVOPTX ファイル	5 KB
test.uvprojx	2025/05/21 9:23	uVision5 Project	14 KB
Listings	2025/05/21 9:24	ファイル フォルダー	
Objects	2025/05/21 9:24	ファイル フォルダー	
先月			
AIVibrationInferenceV1.0.25.0428.hex	2025/04/28 15:08	HEX ファイル	145 KB

4. Keil uVision に戻ります。Flash から Download します。



成功すると、画面の下部にある Build Output にて以下の表示が出てきます。

```
Erase Done.
Programming Done.
Verify OK.
Flash Load finished at 09:38:37
```


6 J-Link を使用する場合

6.1 必要なファイルの準備

「FJXTLEXIDE_OMEGA_ARM_UM-02.pdf」p100 に従って、FLM ファイルと xml ファイルを指定のフォルダに置きます。



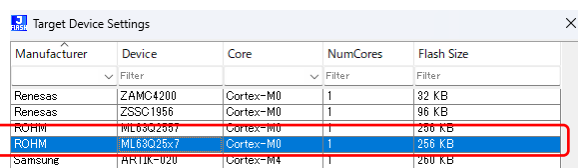
●事前準備にて作成する xml ファイルについて

ML63Q25x7 を追加する場合の文章をコピーアンドペーストして「ML63Q25x7.xml」として保存します。以下のように”と M の間に空白が入っている場合は削除します。

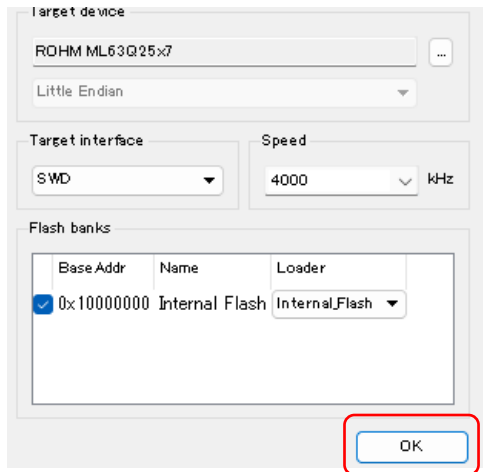
Loader=" ML63Q25x7.FLM"

6.2 J-Flash で書き込み

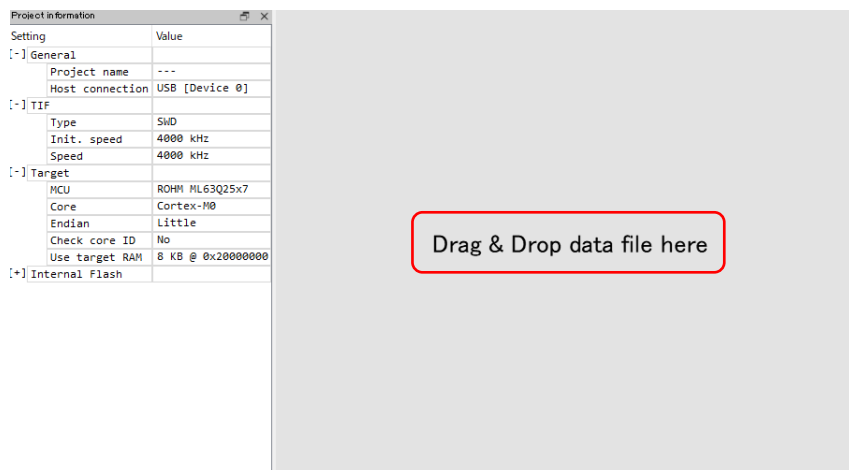
1. J-Flash を開きます。
2. Create new project を選択します。
3. TargetDevice に「ML63Q25x7」を選択します。



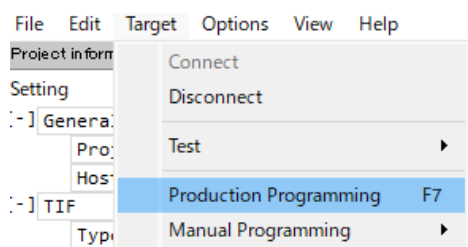
4. OK を押します。



5. 「Drag & Drop data file here」に hex ファイルをドラッグアンドドロップします。



6. Target から「Production Programming」を押して書き込みます。



7 商標

「Keil」、「uVison」は Arm Limited の商標です。

LAPIS TECHNOLOGY™ は ローム株式会社の商標です。

本資料に記載している製品、会社名は各社の商標または登録商標です。

8 改訂履歴

改訂番号	発行日	改訂内容	
		ページ	内容
20250523	2025-05-23	-	正式リリース。
20250528	2025-05-28	6	電源供給を行う DAPLink についての文章を変更。

- 本書の内容の一部または全てを予告無しに変更することがあります。
- 本書の著作権は株式会社データ・テクノにあります。株式会社データ・テクノの書面での承諾無しに、本書の一部または全てを複製することを禁じます。
- 本書に記載の情報のご使用による損害に対して一切責任を負いません。自己の責任においてご利用ください。
- 問い合わせは「info@datatecno.co.jp」からお願い致します。

Copyright 2025 DATATECNO Co.,Ltd.

DT-EBML63Q2557 ファームウェア書き込み手順書

発行年月日 2025 年 5 月 28 日

発行・著作権 株式会社データ・テクノ
